

新年度になりました。

本日も熊本労災病院のホームページを訪れていただき、感謝申し上げます。

今年の桜は、花冷えもあり、長く持続しているように思います。当院駐車場の桜もきれいに咲いています。少し下火かと思われるコロナですが、それでもなさそうな気配です。みなさんも、ワクチン接種を急ぎ、再拡大を防ぐべく日常生活に気をつけましょう。

今年もたくさんの新入職員を迎えました。初めて社会人になった研修医や新人看護師、医療職、事務職など、うらやましいほど若々しい力がたくさん加わりました。今年は、会議室に通常通り対面で集まっていたいただき、それぞれに辞令をお渡ししました。たくさん読み上げて息切れし、寄る年波での心肺機能の低下を痛感しました。他の病院などで経験を積み、医局人事で当院へ新たに着任された医師も多くいます。中には、当院で初期研修をうけたのち大学医局に入り、専門研修を深めるために再度当院へ来られたかたも多くおられます。若い職員は、経験はまだ少なくても、やる気に燃えています。それが多くの先輩たちを刺激していい循環が生まれることを期待します。今年度、医師は約 3 分の 1 が交代しました。医師の交代は一時的には患者さんにご迷惑をかける事があるかも知れませんが、若い医師が交代でもたくさん来られることは、当院の医療や教育研修機能の高さを示すものでもあり、また結果的に層の厚い、信頼できる診療体制を生み出すことにもなります。折しも、まだ大歓迎会を開催するには至りませんが、それぞれの職場でコミュニケーションを早く確立する工夫をしていただければと思っています。

熊本労災病院は、今年度、創立 68 年になります。当初の労働災害診療の流れを汲み、勤労者医療を見据えた組織の本筋は保ちつつ、一般診療、専門診療、救急医療に、さらに力を入れていきます。昨年度末には、30 年以上という長きに渡り当院に貢献いただいた、金子泰史院長相談役が御退任となりました。心臓血管外科、胸部外科担当の医師として 39 歳で当院に赴任され、診療科部長から、副院長、院長代理、そして院長相談役として、病院全体の運営に極めて多大な貢献をされてきました。私の着任直前の院長代理が金子先生であり、まさに生き字引としてたくさんのご相談をしてくれました。金子先生を慕っておられる患者さんも多いと存じます。今後も、週に 1 回、非常勤で外来診療を担当していただきますのでご安心ください。私自身も、まだ相談のつてがあると少し安堵しております。

そして新たに、副院長として、産婦人科部長を兼務される福松之敦先生がご着任になりました。福松先生は、熊本赤十字病院の産婦人科部長として長らくご活躍されての転任です。婦人科腫瘍がご専門であり、当院の産婦人科診療の発展に大きく寄与するとともに、県内有数の急性期病院である赤十字病院のいろいろなノウハウを当院に移植してくださることも期待しております。

事務部門トップの、事務局長、次長も同時に交代となり、病院執行部の変革の年となります。老朽化した手術室やリハビリ棟などに大きくて手を入れる必要に迫られており、また診療報酬

改定に伴う収支の改善も待ったなしの状態です。これまで地域の患者様からときどきご意見をいただいております、患者サービスや接遇という基本的な課題にも取り組み、熊本労災病院がさらに良くなった、と言われる節目の年度にできればと思います。日頃よりお世話になっております関係医療機関の皆様、そして熊本大学病院、産業医大病院や、保健所、熊本県、八代市など行政の皆様にも、引き続き、ご指導ご鞭撻をいただければと存じます。

今年度も、皆様の熊本労災病院をどうぞよろしくお願いたします。